



各大学の取り組み

5. 慶應義塾大学 (1/2)

慶應義塾の伝統、独自の工夫、私立大学の貢献 『独立自尊』

教育・研究指針：『一身独立して一国独立す』、『半学半教』

- 1] 結束力の強い同窓会(三田会30万人)に象徴される「年代を超えた縦のつながり」、「学部を超えた横のつながり」によって、「学力・研究力の向上」にとどまらず社会性・国際性を身につけた「人間力ある人材の育成」を心がけている。
- 2] 質の高い研究を行える若手研究者の育成や、キャリア形成促進を目的とした古くからTeaching Assistant(TA)や、Research Assistant(RA)制度の活用。「大学助教(有期・研究奨励)」の雇用制度(2009年)を創設。 ←大学経常費
- 3] 「博士課程学生研究支援プログラム」を新設し(2008年)博士課程学生へ研究費を助成し、大学独自に研究者としてのスタートアップの支援。若手研究者を対象に、将来大型の研究プロジェクトを運営するマネジメント能力を鍛える「次世代研究プロジェクト推進プログラム」を実施(2008年) ←大学経常費

私立大学学生数は73.3%を占めている。科学技術創造立国を国是に、「新しい文明を開拓」するにあたり、相当数の科学者・技術者の確保と人材輩出に私立大学が貢献している事実を忘れてはならない。



若手研究者育成プラットフォーム

1] 若手研究者が幅広い分野に大胆に挑戦し、質の高い研究を行い、多様なキャリアパスを目指すことができる環境整備が重要。このために、国は、「若手人材育成のプラットフォームづくり」を支援し、若手研究者に対して、大学は「人材育成とキャリア支援」で、産業界はその後の「雇用支援」で、それぞれ責任を持ち長期的な視点で有機的かつ持続的に連携していくことが不可欠である。

2] 国内に分散する同一分野の研究者を結集する仕組み作りも重要。例えば、独立行政法人研究機関など政府系研究機関を、分野ごとに大学内へ移管・移設することや、コンソーシアム形成(学学連携&産学連携)を強力に推進することが、限られた人的資源、研究資源を集中させ、より大きな研究成果をあげるための道を開く。

電子ジャーナルの価格高騰に対する対応

グローバル化の中で、科学の国際競争力維持に不可欠な、公共性の高い学術情報アクセス権の継続的確保が必須で、e-Journal価格高騰に対処する交渉機関の一本化と国資金投入が喫緊の課題。